



24時間、学びの時間

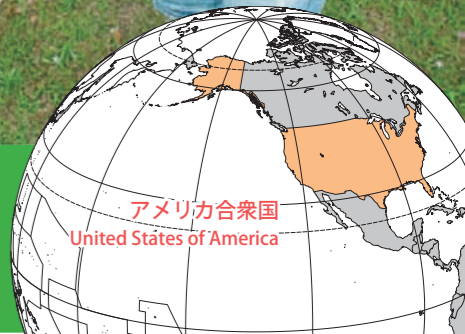
日本語・日本文化研修留学生
ダリオ・イマス



アメリカが私に 教えてくれたこと

学校教育教員養成課程 言語・社会コース
英語・国際理解教育専修 4回生
(大阪府立生野高校出身)

木村 祐葵



留学生レポート



友達の結婚届の証人として



ルームメートの実家にホームステイ

留学で得た外国での 生活を成功させる秘訣

私は2009年8月から十ヶ月間、アメリカのセントラルミシガン大学へ交換留学生として渡りました。中学校時代から留学することを夢見ていた私にとって、この十ヶ月間はかけがえない宝物になりました。

今振り返ると当時はなんて度胸がなかったのだろうと思います。英語と人種多様な外国人で溢れかえったアメリカに着いた途端、私は今まで感じたことのない不安に苛まれました。わからないこと、困ったことが初めのうちはたくさんありましたが、それを問う勇氣もなく常に周りを見ながら消極的に

学ぶということの繰り返しでした。しかし銀行カードが届かないという事件をきっかけに私は「自分で働きかけていかななくてはいけない」と思うようになりました。大学についてすぐに私は銀行口座を作ったのですが、一向にカードが届かない。そこで私は「このままだとお金が出せなくて生活が出来ない」と毎日のように下手な英語を使いながら銀行に抗議に行きました。あの時は大変な思いをしたのですが、今思い返すとあれがきっかけで私は英語を使って意思疎通するという度胸を身につけられたと思います。

それが以降私は積極的にいろいろな人や行事に関わることに對して戸惑いを忘れ、留学を終える頃には初めて会っ

日本と私

私は子どものころから、日本文化に深く興味を持っていました。日本は私の母国・アルゼンチンから非常に遠くて、珍しい国なので、出来ればいつか日本へ行きたいとも思っていました。そう思いつつ、日本語の勉強に励んでいたある日、日本へ行く為の試験があり、合格出来ました。それで去年の10月、家族は私を送るためにブエノスアイレス国際空港まで来てくれました。その時お母さんは「いよいよ日本に行くことになって、夢がかなったね。」と言ってくれました。それから三十時間以上も飛行機に乗って、やっと日本に到着しま

したが、アルゼンチンとは時差もあり、季節も全然違いました。

今、奈良教育大学で勉強して、もう八ヶ月になりました。この八ヶ月間、留学生生活を大いに楽しみ、時間がとても早く経ったと思います。

よく学び、よく遊べ

日常生活では日本語と日本文化との出会いが多いです。ですから、外国語の勉強というのは、授業時間以外にも勉強することが出来ます。

たとえば、日本のテレビでは非常におもしろい番組がたくさん放送されています。ですから、テレビを見ながら

た人とも気軽に話したりできるようになりまし。友達と初めて計画したシカゴ旅行では苦戦することも多かったのですが、現地の人に道を聞きながらもうまく旅することが出来ました。外国で生活するために欠かせないこと、それは言語よりむしろその国、人々に関わっていかうとする気持ちと度胸だと実感しました。これは留学なしには学べなかつたことだと思えます。

プラスにもマイナスにも 取れる文化の違い

留学生活に少し慣れてくると、文化の違いが見えてくるようになりました。当初は文化の違いから生じるマイナスマージばかりが目がいってしまいました。アメリカ文化と長年慣れ親しんだ日本文化とを比較することで「なんて日本はいい国なんだ、私が日本に戻ったらもっとよくしていくために貢献していきたい」と強く思うようになりました。しかし半年近くがすぎると、アメリカのいいところが見えるようになりまし。中でも、私が一番好きなアメリカの側面は「簡潔」「対等」という点です。アメリカ人は物事を直接的に言う人がとても多いです。初めは「きついなあ」と感じたのですが、誤解がないようにはっきりと述べるというこの文化は理にかなっています。そして相手を褒めるときにもダイレクト表現を使います。少し恥ずかしいようなことでも平気で言い合えるので私はこの「簡潔」をモットーにしている文化が好きになっていきました。そんな文化の違いの発見に出会えたことを嬉しく思っています。

Reverse Culture Shock?!

日本に帰ってくるとReverse Culture Shockというものを体験します。他人に気を遣うことを今まで当たり前だと思っていた私ですが、飛行機に乗った時に隣に座った日本人が私のことを気にかけてくれた時に逆カルチャーショックを受けました。

今振り返ると、アメリカでの生活はまるで夢を見ていたかのようになっていました。なかなか友達が来ず悩んだり、一日中勉強漬けの毎日に嫌気が差したりした時もありましたが、そんな困難も乗り越えて今の私がいま。今でもふと空を見上げアメリカで生活している人々のことを思い出したりします。大変なことたくさんありましたが、全部がいい思い出です。国を越えて、私の見えないところで頑張っている人がたくさんいる、そんな風に世界の繋がりを感ずるようになった今では留学を通して少し視野が広がったように思えます。

The world is a book, and those who do not travel read only a page. -Augustine-
(この世界は一冊の本のようであり、旅することのない人はそのたった一ページしか読んではいない。)

これは奈良教育大学で知った留学生が私の留学前にプレゼンしてくれた言葉です。この言葉が表すようにこれからも多くの後輩たちがこの交換留学制度を通じ、新たな発見や体験に出会えることを願っています。

と、冬でも小学生が短いパンツで薄着でいること、王様になったみたいな気分させられる良いサービスタクさんのお笑い番組があること、などにビックリしました。

よく学び、よく遊べと言われますが、外国に住んで、一日中ずっと文化交流をしているので、遊んでいても、学んでいることになると思えます。そういうわけで、日本での生活は忘れられないほど豊かな経験になりました。



留学生実地研修旅行～明石大橋にて